

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

2017
冬

12月1日発行(季刊)



茶の湯の源流を訪ねて

晴友会の研修旅行で、京都の西、梶尾の高山寺を訪ねました。開山した明恵上人は
栄西禅師からお茶の種を受け取り、茶園を作ったのが今からほぼ800年前の事です。
茶の湯の一步がここから始まったのだという感動がありましたね。 (8頁に関連記事)

第三回 あ・うんの数寄講座 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習 その二
茶室設立二十周年記念茶会 野村美術館茶会
12月から2月までの茶華道・イベント情報
財団の活動報告とお知らせ

96

発行・公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL.(087)826-3355 FAX.(087)826-2212

第三回 あ・うんの数寄講座 その二

茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

茶の湯の楽しみは、人それぞれに大きく異なると思いますが。釜が好き。茶碗が好き。茶花が好き。茶事が好き。お点前が好き。嗜好の数寄者が茶道という共通の世界に在って、楽しみを共有する事に心を砕いてきます。おそろく一生尽きる事のない迷宮を少しでも深いものにも出来る事を願って、また次回の企画を考えたいと思います。ありがとうございました。

■ 第四回 八月六日(日)
「黒田家の竹工芸」
講師：黒田正玄
(千家十職竹細工・柄杓師 十四代当主)

「黒田正玄さん(くろだ・しょうげん) 千家十職十三代竹細工柄杓師)が七月二十四日死去、81歳。喪主は長女の十四代正玄(本名・益代)さん。」
この訃報に当財団に激震が走りまわりました。なぜなら二週間後の夏期講習に黒田家十四代当主を講師にお迎えしていたからです。

しかし八月六日、快晴の日曜日に茶の湯をさらに楽しむ夏期講習は幕を開けました。

報の報告とともに、当財団に対する先代の思いに伝えるために今日ここに訪れたと語ってくださいました。
そして黒田家のお仕事のお話になりました。

竹細工師の仕事は竹を見つけることから始まるそうです。最近では整備された竹やぶが激減して使える竹がなかなか見つからないそうです。

使える竹とは太さや色、節間だけでなく、変形やしみも含めて作る茶具にあつたもので、茶道で使う竹細工は柄杓をはじめ花入、茶杓、香合などがありますが、逆に言えば竹を見てどの茶具にするか考えて伐採してくるそうです。

しかも伐採した竹を二ヶ月ほど乾燥させ、油抜き作業をし、その後一月半ほど天日干しして、さらに風通しの良い日陰で数年寝かせて、反り、割れ、変色など

の無いものが厳選されて初めて茶道具の素材になるのだそうです。

柄杓や茶杓に使う竹は真竹だそうです。柄杓は別名苦竹と言われ、筍として食用に収穫される孟宗竹とは違い、エグみが強いので通常は食用されないと手入れされていない竹林が多く、昨年はあったのに今年行ったら伐採されていたということもあるそうです。

近年は京都周辺だけではなく近畿圏から出たエリアに竹を探しに行くこともあつたそうです。

なぜ竹を選んで伐採したのに数年もかけて寝かせ厳選するのかと聞いてみると「茶道具は四百年前に初代が作り今も残る『帰雁』に見るように素材こそが命だからです。素材が生き物だから、長く使える道具にするにはそれだけの手間が必要なのです」とのことでした。

そして千家十職である黒田家のお話になりました。

初代正玄は今の福井県辺り越前の武家の生まれで関が原の戦いで西軍に属していたために改易、その後大津に移り住み竹細工職人になりました。

評判を高めた正玄は京都に移り住み遠州流の祖、小堀遠州に茶を修行し、その縁から江戸幕府とのつながりを作りました。その後大徳寺の江月宗玩の紹介で千宗旦に柄杓を収めるようになります。

わび茶の完成者として知られる千利休、その簡素簡略の境地を重んじた利休ですが独特の好みを持って茶道具を選んでいます。



その後を次いだ宗旦も利休の茶風を残そうと職人を指導し、利休好みの作品を作れる者を重宝するようになり、十七世紀頃から千家の茶会に欠かせない数人の職人が選ばれてきました。

千七百三十九年の利休・百五十年忌の茶会では五職が招かれており、その後八職から十二職の間で変動したようですが、天保十一年(一八百四十年)の利休二百五十年忌の頃には現在の茶碗師、釜師、塗師、指物師、金物師、袋師、表具師、一閑張細工師、土風炉・焼物師、そして本日の講師である黒田家の竹細工・柄杓師にまでまつてきたようです。

黒田正玄の名は千七百五十八年に行われた宗旦・百年忌茶会の最終日に招かれた十職人の中にあり、年号から考えると五代正玄ですが、それ以前から初代は千宗旦に柄杓を収めていたのです。

現在の黒田正玄は平成二十六年に十四代を襲名。黒田家初の女性当主です。

当主になってやりたいことはと聞くと「茶道の祖は男性が多いのでその茶道具も男性の手の大きさに合わせて作られていると感じていました」女性のサイズにあったお道具を提案できないかと考えているそうで、このような女性ならではの感性を生かした作品作りを目指しているそうです。

大変な時期に新高し講習していただき感謝に堪えません。

あっとい間時間の二時間半でした。

(香川二郎)

第五回 八月二十七日(日)

「茶の湯を楽しむ」

―道具の取合わせ―

講師・木下 収

(北村美術館 館長)

茶の湯とは何か。「美を発見する為に美を隠し、表す事ははばかりする事を暗示する術である」と岡倉天心は言いました。

しかし私は、茶の湯を勉強するならば、井伊直弼から入った方がわかりやすいと思います。優れた茶人でもあった大老井伊直弼が『茶湯一会集』で、一期一会や独座観念といった茶事の心得を説き、茶の湯が政道も含めて全てに通用する道であると言われました。彼は大名でありながら「茶を点てて、道具求めて、蕎麦食らい、庭を造り、月花を観る。その他に望みなし」という方です。

もう一人の大名茶人松平不昧公は、「露地数寄は宗旦、物数寄、好み物は宗甫との、茶の法は宗閑どの、一人にしたら天下なり。その心にて修行すべし」これは茶の湯の三大要素です。露地数寄は茶室や露地などの設え。宗甫は道具に傾倒した小堀遠州。宗閑は、徳川家の茶道指南となった片桐石州のことです。

わび茶に至る歴史を振り返ってみますと、「茶は医薬に始まり飲料になった。中国に於いては八世紀に高雅な娯楽のひとつとして詩歌の領域に登場した(岡倉天心)」。日本では『日本後記』弘仁六年

八一五年に僧永忠が嵯峨天皇に近江の梵釈寺で献じられたという記録が最初です。

その後『喫茶養生記』(一一二一)を遺した栄西禪師が宋からお茶の種を持ち帰り、高山寺の明恵上人に託して茶の栽培が始まったとされています。以来、お茶は禅寺の茶礼に始まり、会所のお茶、闘茶を経て、一服一煎のお茶という事で嗜好的なものとなりました。今でも建仁寺では、茶礼を体験できます。

千利休は、わび茶の祖と良く言われますが、道は村田珠光に習い、術は武野紹鷗に習ったとあります。利休より百年前に生まれた珠光は、一休禪師に禅を学び、お茶は足利義政の同朋衆であった能阿弥に学びました。

能阿弥は「君台観左右帳記」という室町時代の書院や床飾りについての伝書を残しましたが、珠光は書院のお茶から簡素な地下茶の湯を取り入れ、さらに「茶禅一味」という精神性の高い茶の湯を目指しました。また道具でも、珠光青磁と呼ばれる不完全な茶碗を取り上げ、床には園悟克勤の印可状の墨跡を掛けました。

「月も雲間の無きは嫌にて候 これ面白く候」という歌も有名ですが、それよりも百年前に吉田兼好は「花は盛りには月には隈なきのみを観るものか」と歌っていますし、それよりも以前には、鴨長明は、一丈四方の草庵を結び閑居の楽しみを謳歌しました(方丈記)。つまり日本人は中世の頃からずっと不完全の美を求めていたんじゃないかと思えます。

白洲正子は、「不完全な言葉が集まって連歌を作るように、不完全な道具が集まってお茶の世界を形作る。それが日本の伝統である」と言いました。

利休は、自ら理想とする茶の湯に見合う物を求め、新しい道具を創造し、独自の茶の湯を貫きました。つまり表具を簡素に改め、墨跡を掛け、高麗茶碗を取り上げ、国物の茶碗も取り上げました。言わば価値観の大転換を果たし、茶の湯の中を広げて、今日に続く礎となりました。「万事手軽くさびたるを基とせらるる也(長闇堂記)」

私に言わせれば、利休の茶の湯は、シンプルイズベストだと思います。



茶室設立二十周年記念茶会

野村美術館茶会

京都の野村美術館の谷晃館長を席主としてお迎えして、去る十一月十二日に記念の懸釜をしていただきました。近代数寄者のひとり野村得庵翁のコレクションに囲まれた茶席は京都でも稀な事で、記念行事の締めくくりの茶会として、お客様にもお楽しみいただけたと大変感謝しております。



本誌でもご報告させていただいたように二月には武者小路千家のお家元に「新春のお茶会」を。五月には同じく若宗匠に「新風茶会」という事で懸釜をしていただきました。今回は、その第三弾として、野村美術館の谷晃館長にお願いしました。

野村美術館は、野村證券、旧大和銀行の創業者、野村徳七のコレクションをもとに昭和59年に開館されました。徳七翁は得庵と号して茶の湯や能楽などに親しみ、南禅寺畔に別邸碧雲荘を構えて活動の拠点といたしました。

碧雲荘は、晴友会の研修旅行でも何度か見学にお邪魔しましたが、現在は非公開となっております。美術館も現在リニューアル工事中で休館しています。開館は来年の秋の予定です。谷館長には、去年の夏期講座でご講演をお願いし

て、得庵翁のコレクションについてお話ししていただきました。さて、茶席の寄付では床に松花堂昭乗の柿に茸図。床前には炭道具が並べられ香合は雲州藏帳にも掲載されている呉洲赤絵菊兔 銘「裾野」。今年二百年忌を迎えた松平不昧公を若干意識した道具組か紹陽好みの灰匙も袋に不昧公の書付の物が置かれました。

灰器はノンコウの赤楽。炭取は十七世紀のタイの蒟醬底四方炭取などが置かれた。讃岐の蒟醬の元になった漆芸の技法です。

菓子席の床は松村景文の山茶花に雀図。濃茶席は、玉舟和尚の「放」の一字が掛けられました。花入は、武者小路千家の一翁宗守の兄の閑翁宗拙作、竹一重切銘「丹頂」は不昧公愛蔵の珍品。釜は浄

長作の糸目小尻張釜。炬縁は薬師寺金堂古材。水指は、古備前、銘「干潟」、小堀権十郎箱。茶人は瀬戸飛鳥川手肩衝、銘「山里」。山里は秋こそ殊に侘びしけれ鹿の鳴くねに目をさましつ」という古今集の歌から遠州が命名したと伝えられるものです。茶杓は敷内竹心共筒で、銘は「初祖菩提」

本席の茶碗は釘彫伊羅保、銘「苔清水」。次碗は尾張藩士、平沢九朗作の織部写杓形秋草絵茶碗。絵唐津茶碗、銘「嶺雲」などが使われました。ご亭主の谷館長は、重厚な道具組に付いて軽妙に和氣藹々と楽しそうにお話をされています。

また点心席で展覧された釜は、芦屋真形松竹梅地紋、宗旦箱。茶人は大名物の唐物種村肩衝、雲州松平家伝来。茶杓

書道教室 森本義人先生
毎月第一・第三金曜日
十二月一日(金)・十五日(金)
午前十時~十二時
和菓子講座 高橋初乃先生
十二月八日(金)午前十時~十二時
ヤングヤング(子供茶の湯講座)
毎月第二・第四土曜日
山下純子先生
十二月九日(土)・二十三日(土) 午後二時~
十二月月釜 五人様茶会
日時 十二月十七日(日)

財団行事予定

(十二月~二月)

十二月

書道教室 森本義人先生

毎月第一・第三金曜日

十二月一日(金)・十五日(金)

午前十時~十二時

和菓子講座 高橋初乃先生

十二月八日(金)午前十時~十二時

ヤングヤング(子供茶の湯講座)

毎月第二・第四土曜日

山下純子先生

十二月九日(土)・二十三日(土) 午後二時~

十二月月釜 五人様茶会

日時 十二月十七日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 石州流讃岐清水派石州会 石原宗恵

薄茶 石州流讃岐清水派石州会 野口宗真

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費 五千円

入席時間ご案内(各席二時間十五分を予定)

第一席 A席・B席 九時

第二席 A席・B席 十時三十分

第三席 A席・B席 十一時十五分

第四席 A席・B席 十二時四十五分

第五席 A席・B席 十四時十五分

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

十二月十九日(火)午前十時~午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

一月

初釜

喫茶室でもお馴染みの美澤先生が点初めのお席を設けてくださることにになりました。

「長寿の釜を数点展示して皆様のお越しをお待ちしております」と席主からのメッセージを添えてご案内致します。

好例の福引もありますのでお楽しみに。

日時 一月五日(金)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

席主 表千家流 美澤宗包

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費 八千円

大人のコロネ発見

一般的に「コロネ」と言えば日本で開発された菓子パンの一種でパン生地を円錐形の金属製芯(コルネ型)に巻貝状に巻きつけ、焼き上げたのち、チョコクリームを詰めた「チョココロネ」を思い浮かべませんか？

また、ケーキ屋さんの「コロネ」はパイ生地にカスタードクリームを詰めたスイーツですよ？

志度にある“Ainaふろーりあん”のコロネはパイ生地ではなく、パンのデニッシュ生地を使って作られていて、注文してからクリームを詰めてくれるので、外はサクサク中はデニッシュのようにしっとりした食感のパイとデニッシュのいいとこ取り。

普通のコロネのようにぱらぱらと生地がこぼれ落ちることがないのも嬉しいところですね。



クリームは「カスタード」と「チョコクリーム」の二種類あります。サクサクしつとりのコロネを食べてみてはいかがでしょうか？

くにももの(27)

源内焼の茶釜

先だつての財団主催あ・うんの数寄「若人茶会と讃岐もの」は三年目を迎え、玉藻公園披雲閣での二日にわたる賑わいぶりは本誌夏号

若人に習う茶もありに紹介しました。
その席の一つ、ヤングヤング(子供茶の湯講座・山下純子先生)の可愛いお茶人さんたちが、モダンな天遊卓に据えた小ぶりの土風炉に掛けた陶器の富士釜が話題になりました。



珍しがられた茶釜は源内焼で、十四、五年前、瀬戸内海歴史民俗資料館「讃岐の古陶磁展」で持ち寄り展示の香炉や茶碗、香合、水指、手あぶりなどの茶道具から懐石用の皿や鉢、飾り置物などを見て、それらを本来の姿(茶室での道具組)にして郷土のお茶文化を語りあいたい、財団の月釜「さぬきもの茶会」を担当してくださったご亭主の方が讃岐ゆかりの掛物や花入、風炉先、炬燵を追加しながら、茶陶の湯釜を新詠されるとの話に便乗させてもらったものでした。久しぶりに見た緑釉陶器の茶釜に昔日の思い出話が重なりました。

は蒲生氏郷共筒、銘「もしほたれつつ」、茶碗は二碗飾られ、ひとつは青井戸で、十六世紀の朝鮮王朝時代、遠州筆と伝わる銘は「落葉」。もうひとつは本阿弥空作の黄釉茶碗。

薄茶席の本床には、加賀前田家伝来の熊野懐紙。鎌倉時代。寂蓮筆で行路水と夕炭竈の二首の和歌が詠まれています。花入は、明時代の籐組で唐物木耳籠に見事な照り葉が入られました。香合は仁清の羽子板。琵琶台には十八世紀前半に活躍した蒔絵師、小川破笠作、歌仙硯箱が飾られました。

点前座は、棚が朝鮮王朝時代の螺鈿葡萄唐草文旅簞筒で、藪内流燕庵伝来の東山御物が、目を引きまします。水指は色も鮮やかな和蘭陀青釉。釜は十代浄雪作の墨坐富士釜。炬燵は五代宗哲作の高台寺時絵と華やか取り合わせになりました。

棗は盛阿弥作の尾長鳥蒔絵。茶杓は藪内竹翁共筒で銘は「侘の友」。茶碗は高原焼菊絵茶碗は徳川家の御用窯だそうです。次碗は萩桐締茶碗と三碗は初期京焼のひとつで御菩薩焼の笹絵茶碗が使われました。

建水は明時代の七宝唐花文。蓋置は後陽成天皇の皇子、常修院の作による寄竹蓋置という珍しいものが使われました。

一般的に普段、直接触れる機会のない道具での茶会を実現していただいて非常に希有な茶会になりました。遠路よりお集まりお手伝い下さった茶友の皆様にも感謝申し上げます。

入席時間ご案内(各席十五名)
第一席 九時 第二席 九時五十分

第三席 十時四十分 第四席 十一時三十分
第五席 十二時二十分 第六席 十三時十分
第七席 十四時 第八席 十四時五十分
各席二時間三十分を予定

◆和菓子講座 高橋初乃先生

一月十二日(金) 午前十時～十二時

◆ヤングヤング(子供茶の湯講座)

山下純子先生

一月十三日(土)・二十七日(土) 午後一時～

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

一月十六日(火) 午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆書道教室 森本義人先生

一月十九日(金)・二十六日(金)

午前十時～十二時

二月

◆書道教室 森本義人先生

二月二日(金)・十六日(金) 午前十時～十二時

◆二月月釜 五人様茶会

竹井先生からの「立春大吉 寿ぎを祈るひとときを皆様と一緒」と合わせてご案内致します。

日時 二月四日(日)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

席主 武者小路千家 竹井守恵

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費・入席時間 十二月五人様茶会と同様

懐石講座 三友居 山本勝先生

二月六日(火) 午前十一時～午後三時

◆和菓子講座 高橋初乃先生

二月九日(金) 午前十時～十二時

◆ヤングヤング(子供茶の湯講座)

山下純子先生

二月十日(土)・二十四日(土) 午後一時～

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

二月二十日(火) 午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要です。

お申し込み、お問い合わせは、当財団事務局

まで(水曜日休館)高松市番町二丁目一十二

☎(087)826-3355

茶 華 道 ガ イ ド

表千家同門会香川県支部 ☎(087) 845-4638

- 12/3 香川県支部創立記念茶会
席主: 真鍋容子・安西朱美
満濃農村環境改善センター
1,000円 9:00~15:00
- 2/11 東讃四季茶会 席主: 上田桂子
中條文化振興財団
600円 9:00~15:00
- 2/25 中讃春秋茶会 席主: 三木真弓
善通寺護国神社
600円 9:00~15:00

琴平月釜茶会 ☎(0877) 58-9551

- 12/2~3 第45回琴平町 歳末助け合い
チャリティ茶会・煎茶静風流
席主: 金丸洋子
町総合センター 200円 9:00~15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877) 62-0798

- 12/10 月釜(丸亀分会) 席主: 大場宗雪
丸亀生涯学習センター
500円 10:00~15:00
- 2/4 月釜(坂出分会) 席主: B班社中
坂出勤労福祉センター
500円 10:00~14:00
- 3/4 月釜(多度津分会) 席主: 石川宗雅
多度津総合福祉センター
500円 10:00~15:00
- 3/18 月釜(善・琴分会) 席主: 山下宗澄
樟蔭軒 500円 9:00~14:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087) 861-3136

- 12/10 高松青年部チャリティ茶会
席主: 高松青年部 中野天満宮天神会館
前売1,000円・当日1,100円
9:00~15:00
- 2/4 淡交会高松支部月釜 席主: 高橋宗久
中野天満宮天神会館
前売600円・当日700円 9:00~15:00
- 2/11 栗林公園「節分茶会」 席主: 平池宗秀
栗林公園花園亭
3,000円(薄茶・点心付) 9:00~16:00

石州流讃岐清水派石州会 ☎(087) 898-6569

- 1/21 西徳寺月釜(東讃茶道懇話会)
席主: 野崎宗美
池戸西徳寺 600円 9:00~15:30

東讃茶道懇話会 ☎(087) 898-0391

- 1/21 月釜 席主: 石州流 野崎みや子
池戸西徳寺 600円 9:00~15:30

武者小路千家香川官休会 ☎(087) 851-2258

- 1/28 香川官休会月釜 席主: 男子組
無量寿院 600円 9:00~15:00

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎(087) 879-0717

- <由佐城月釜茶会> 第2研修室(和室)
当日500円 9:30~14:00
- 12/17 席主: 綾野宗悦
(茶道石州流宗家高松会)

- 2/18 席主: 渡邊宗芳
(裏千家 川原宗津社中)

栗林公園内花園亭 ☎(087) 831-5255

- 2/11 花園亭節分茶会
席主: 裏千家 平池宗秀
3,000円(節分点心付) 9:00~15:00

中條文化振興財団 ☎(087) 826-3355

- 12/17 12月月釜 五人様茶会 5,000円
濃茶:
石州流讃岐清水派石州会 石原宗恵
薄茶:
石州流讃岐清水派石州会 野口宗眞
1/5 初釜 席主: 表千家流 美澤宗包
8,000円
- 2/4 2月月釜 五人様茶会 5,000円
席主: 武者小路千家 竹井守恵

以上の茶会はいずれも点心席を含みます。
詳細は、財団行事予定をご覧ください。

イ ベ ント ガ イ ド

- 12/23~4/15 [平成29年度第Ⅲ期常設展]
青と黒、ときどき赤 一単色の魅力
9:00~●

高松市石の民俗資料館 ☎(087) 845-8484

- 12/1~10 共催展「師走展(前期)」
企画展示室 9:00~■
- 12/15~24 共催展「師走展(後期)」
企画展示室 9:00~■
- 12/17 Slide To Sing
~mokti trombone quartetが贈る
クリスマス~
エントランスホール 18:30~●
- 1/6~2/11 企画展「さぬきアートプロジェクト
四宮龍展 Wave シリーズ2018」
企画展示室 9:00~●
- 2/17~3/18 共催展「石の旅路
一小豆島から上方へ江戸へ」
(徳島文理大学文学部学生による展覧会)
企画展示室 9:00~●
- 12/8、1/12、2/9 古文書を読む会(8~10)
江戸時代の和歌等を読み解いて
講師: 加藤 優(元徳島文理大学教授)
講座研修室 14:00~●

土庄町教育委員会 ☎(0879) 62-7013

- 【土庄町立中央公民館】
- 12/10 第25回土庄町音楽フェスティバル
大ホール 13:00~■
- 3/4 土庄町芸能まつり 大ホール 13:00~■

坂出市民ホール ☎(0877) 45-1505

- 12/3 名作 in シネマ「徘徊」
10:30~、13:30~●
- 12/10 坂出市市民芸術祭
日本舞踊公演 11:00~●
- 12/24 瀬戸フィルハーモニー交響楽団
クリスマスコンサート 13:30~■

かまどホール ☎(0877) 46-2178

- 12/1~15 横田由美 書道展 10:00~■
- 1/6~26 現代工芸美術家協会
四国会展 10:00~●
- 2/3~25 さとうゆうじ・ゆき 2人展 10:00~●
- 3/3~25 溝淵美悠紀
手描き友禅と俳句 10:00~●

サクラートたどつ ☎(0877) 33-3330

- 【多度津町民会館】
- 12/17 多度津中学校吹奏楽部
第4回アンサンブル発表会
2階ホワイエ 10:00~■
- 2/24 「劇団四季」ファミリーミュージカル
「ガンバの大冒険」
ホール 18:00~●

丸亀市文化協会 ☎(0877) 24-8822

- 1/19~21 丸亀市文化協会自主展覧会
「丸亀書道代表作展」
丸亀市立資料館1階展示室 9:30~■

- 1/21 名作映画まつり
「五番町夕霧楼」「雪国」「夜の河」3本立
丸亀市生涯学習センター
3階ホール 10:00~●
- 2/14~25 香川県文化協会西讃支部美術展覧会
9:30~■
- 「絵画」丸亀市生涯学習センター
1階ギャラリー
- 「書」丸亀市立資料館1階展示室
- 「写真」丸亀市立資料館2階

あーとらんどギャラリー ☎(0877) 24-0927

- 12/3~24 豊沢英之+斎藤朋子+谷本久美子 展
10:00~■
- 1/7~28 妻鳥 健 展 10:00~■
- 2/16~18 アート名古屋 展 10:00~■

ハイスタッフホール ☎(0875) 23-3939

- 【観音寺市民会館】
- 12/13 古澤巖×ベルリン・フィルハーモニー
ヴァルトウオーソ' 大ホール 19:00~●
- 1/21 NHK交響楽団 観音寺特別公演
大ホール 15:30~●
- 2/4 第13回 観音寺市民音楽祭
大ホール 11:30~■
- 2/7 中村美津子 コンサート
大ホール 14:00~、18:00~●
- 2/24 東日本大震災福幸支援コンサート
和楽器演奏集団 独楽(こま)
大ホール 18:00~●

イベントガイド

香川県立ミュージアム ☎(087) 822-0247

- ～12/24 アートコレクション 20世紀の美術Ⅱ
常設展示室2 9:00～●
- 12/1～24 アートコレクション 香川の風景
常設展示室4・5 9:00～●
- 12/8～2/18 伊勢御師が見た讃岐
常設展示室1 9:00～●
- 1/2～21 第64回 日本伝統工芸展
特別展示室他 9:00～●
- 2/23～4/22 四国を繋ぐ
—大久保謙之丞と四国新道—
常設展示室1 9:00～●

【瀬戸内海歴史民俗資料館】

- ～12/17 さぬき育樹ものがたり 9:00～■

高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

【サンクリスタル高松】

- ～3/25 学習室展「讃岐の方言を
料理(デザート)する」 9:00～●
- ～12/24 収蔵品展
「戦国時代の高松市」 9:00～●
- 1/27～3/18 第74回企画展
「亀井東溪と南蘋派～華麗なる
動植物画の世界～」 9:00～●

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

【サンクリスタル高松】

- <各月の文芸講座>(先着80名)
3階第1集會室 13:30～■
- 12/2 額田王の世界 講師:東城敏毅
1/6 ずいひつ『文章教室』の現場から・3
講師:篠永哲一
- 2/3 菊池家文書から読み解く近世高松
講師:太田 剛
- 3/3 「平家物語・敦盛最期」におけるあはれ
講師:小野泰子

高松市生涯学習センター ☎(087) 811-6222

- 12/2 朗読で脳を活性化!!
～読む人、聞く人募ります～
大研修室 13:30～■
- 12/12 古墳時代の大集落の実像に迫る
～萩前・一本木遺跡の集落とくらし～
大研修室 13:30～■
- 12/13 フラワーアレンジメント講座
～クリスマスリースを作ろう～
実習室 13:00～●
- 12/14 苔玉作り教室 実習室 13:30～●
- 12/15 七宝焼で作る素敵なアクセサリ教室
～あなただけのショールピンを作ろう～
実習室 13:30～●
- 12/23 親子竹細工教室 実習室 13:30～●

高松テルサ ☎(087) 844-3511

- 12/4 「生活に親しむ書」無料体験会
会議室 13:00～■
- 12/7 「漢詩を読む・作る・楽しむ」無料体験会
会議室 13:00～■
- 12/26 お子様書き初め・書き方講座
会議室 硬筆13:00～、毛筆15:00～●
- 1/7 子どもも大人も気分は
タカラジェンヌ! 2nd
ホール 10:00～●
- 1/13、14 第15回こどもエコ絵画コンクールに
挑戦しよう!(2日で1作品)
会議室 10:00～、13:00～●
- 1/14 和三盆干菓子をつくろう
会議室 10:00～、13:00～●

- 2/4、6 スプリングチョコレートアート(2日で1作品)
会議室 10:00～、13:00～●

栗林公園観光事務所 ☎(087) 833-7411

- ～12/3 特別名勝栗林公園
秋のライトアップ
(入園料要) 18:00～21:00
- 12/16 栗林碩学セミナー
「栗林公園一步一景のひみつ」
(入園料要) 13:30～■
- 1/4～2/20 冬のあったか船キャンペン
(入園料要) 9:00～●
- 2/17～18 特別名勝栗林公園梅まつり
(茶会400円、入園料要) 10:00～

玉藻公園 ☎(087) 851-1521

- 12/1～1/31 まつぼっくりツリー展示 水門付近
- 1/1～3 玉藻公園年始無料開放
- 1/2 第7回書初め大会 披雲閣
- 1/3 第10回高松城新春かるた大会 披雲閣
- 1/8～21 書初め展 披雲閣
- 2/3 菊作り講習会 披雲閣

香川県教育会館 ☎(087) 833-0013

【ミュージックホール】

- 12/9 香川大学ギターアンサンブル
第37回定期演奏会 18:00～●
- 12/16 香川大学合唱団
第61回定期演奏会 14:00～●
- 1/21 サヌキロックンロールサーカス(障害
を持つ人が参加するロックバンドと
瀬戸内サーカスファクトリーとのコン
サート) 13:00～●
- 1/27 マイシアター高松第30回鑑賞例会
「紙工落語の会」 18:30～●
- 2/11 第6回香川県高等学校
応援フェスティバル 12:50～■

高松市文化財課 ☎(087) 839-2660

- 12/1 栗山211年祭(式典、作品展[立体折り
紙・書道・押絵])、茶会(茶会500円)
栗山記念館他 9:00～■
- 1/3 水任流新春初泳ぎ大会
大の場海岸 10:00～■
- <ふるさと探訪> 集合場所未定
- 12/17 寺町界隈を歩く 9:30～■
- 1/21 法然寺をまるごと観る 9:30～■
- 2/4 亀水の百手祭(弓射)を見る 午後■

高松市文化芸術振興課 ☎(087) 839-2636

【高松国分寺ホール】

- 12/2 みんなのステージ発表会
ホール 10:00～■
- 12/2 さぬきの歌姫フェスティバル
ホール 15:00～■
- 12/9 石川直樹講演会
ホール 10:00～■
- 12/16 自衛隊第14音楽隊
クリスマスコンサート
ホール 14:00～■
- 12/24 あそびうたまつり
ホール 13:30～●
- 1/7 暖かい冬フェス ホール 10:00～●
- 1/8 新春落語会 ホール 14:00～●
- 2/11 スタインウェイピアノリレーコンサート
ホール 9:00～●
- 2/24 阿波人形浄瑠璃公演
ホール 14:00～●

【サンポートホール高松】

- 1/28 木嶋真優&横山幸雄 デュオ・
リサイタル 大ホール 14:00～●
- 2/10 高校演劇フェスティバル
沖縄県立向陽高等学校「HANABI」
第1小ホール 14:00～●
- 2/18 Sing a song 大ホール 14:00～●
- 3/3、4 第7回サンポートホール高松
デビューリサイタル
第1小ホール 各日14:00～●

NHKふれあいギャラリー ☎(087) 825-0160

- 12/5～10 第11回NHKカルチャー
漢字書道教室作品展
NHKカルチャー漢字書道教室(A・B)
9:30～■
- 1/9～14 春を迎えて 四角オリガミ 9:30～■
- 2/6～11 私達の写真展
フォトクラブ彩光 9:30～■
- 2/20～25 第22回創梓展
四国電力書道部創梓会 9:30～■

桜ショップ高松店 ☎(087) 831-8866

- 12/1～7 高橋一夫・百の木鬼(2年の間つくり
続けた木彫の鬼の数々) 10:00～■

ギャラリーen ☎(087) 851-3711

- 12/8～15 三原佳子 作品展(着物・刺しゅう)
10:00～■

【杜のとまり】

- 1/17～24 鈴木涼子 作品展(陶器) 10:00～■
- 2月下旬 水垣千悦 作品展(陶器) 10:00～■

珈琲倶楽部 ☎(087) 823-0160

- ～12/10 Ben yamaguchiのオブジェ展
10:00～■
- 12/16 チェロ名曲コンサート 2回公演
出演:片山早智夫(チェロ)・
藤川孝子(ピアノ)
(定員:各20名) 13:00～、15:00～●

内町ギャラリーTamamo ☎(087) 822-1037

- ～12/3 一織る・染める・紡ぐー
安達聖子展 10:00～■
- 12/6～10 Fur & Leather展 SUNRASCAL
「津田将志」の工房から職人の手仕事で
仕上げた作品多数を展示 10:00～■
- 1/10～14 Fur collection SUNRASCAL
10:00～■

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎(087) 879-0717

- ～12/3 企画展「日本刀展—もののふの美—」
2階市民ギャラリー 9:00～■
- 12/9～1/14 企画展「屋嶋城と相作馬塚古墳を掘る
～平成28年度遺跡発掘調査速報展～」
2階市民ギャラリー 9:00～■
- 1/19～2/14 企画展「第17回 篆刻展」
2階市民ギャラリー 9:00～■
- 2/18～3/18 企画展「第17回 郷土の文化拓本展」
2階市民ギャラリー 9:00～■

高松市塩江美術館 ☎(087) 893-1800

- ～12/10 【企画展】所幸則展
—うさぎガールと黒縁眼鏡—
～天使からの系譜～ 9:00～●
- ～12/17 【平成29年度第Ⅱ期常設展】
耳をすませば 9:00～●
- 12/16～2/4 【企画展】一道を往く—展 9:00～●

財団の活動報告とお知らせ

中條文化振興財団

中條文化振興財団

文化活動奨励事業

去る十月二日(月)、当財団の立礼席において、平成二十九年財団賞授賞式及び助成金交付団体認定書授与式を行いました。

財団賞は、讃岐かがり手まりの伝承と普及活動をされている荒木永子氏と、玉藻公園にて長年ボランティアでお抹茶の接待をされている久保宗照氏、助成金の交付認定団体、鬼ヶ島文化村、塩飽大工顕彰会、西谷美紀氏に、岡市代表理事より賞状及び認定書を贈呈致しました。

受賞者の挨拶では、活動の状況や事業の報告などが行われました。



1列目左側が荒木永子氏、2列目左側が久保宗照氏

式典終了後の懇親会は、和やかな雰囲気の中、理事の方々のお話に熱心に耳を傾けておられました。

平成三十年度

助成金応募受付中

■対象事業

平成三十年四月一日から平成三十一年三月三十一日までに実施予定の文化事業。詳しくは助成基準をご覧ください。

■応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。(HP参照)
応募締切は、平成三十年一月末日。

■助成金

三十万円を限度とし、活動に応じた金額を審議委員会が決定致します。

助成基準、所定の申請書等は、当財団ホームページよりご確認ください。事務局までお問合せ下さい。

審議委員会による書類審査を行い、必要があればプレゼンテーションを開催。平成三十年三月末までに結果をご連絡致します。

晴友会研修旅行 北村美術館と梅尾山高山寺

紅葉も走りの京都を訪ねて十月二十五日と二十六日に研修旅行に行きました。

初日は、夏期講習でもお世話になりました北村美術館の開館四十周年記念展「旅宿時雨」の見学と木下館長の特別なお配慮で四君子苑のお茶室「看大」でお茶をいただきました。四君子苑は昭和の数寄者・北村謹次郎の旧邸です。菊の高貴、竹の剛直、梅の清冽、蘭の芳香を四君子に讃える中国の風習に由来して名付けられたそうです。また、石造美術の宝庫ともいわれ、重要文化財三点を含む六十点が、庭園の中に所を得て美しく調和していました。

翌日の高山寺では、鎌倉時代に建てられた「石水院(国宝)」の床で、やはり国宝の「明恵上人樹上坐禅像」を拝見という希有な体験も出来ました。

また、昭和六年の上人の七百年遠忌に高橋箒庵らによって寄贈された茶室「遺香庵」も特別に拝見させていただきました。

その他、槇尾山西明寺、高雄山神護寺と三尾巡りをして帰途につきました。



編集後記

一年納めの月、師走となりました。あれもこれもとしなければいけない事の多い時期ですが、こころを落ち着けて一年をふりかえってみるのも大切だと思います。

当財団も春夏秋冬それぞれにあわせて、事業計画を立て取り組んできました。ご参加いただいた方々からのご意見やご希望など伺いつつ、さらに楽しんでいただけるような催しにしていきたいと思っています。

また、財団賞や助成金の交付の決定を通じて、様々な活動や調査研究、長きにわたるご奉仕などを知ることができ感謝でした。今後も活躍されますことを願っています。

新しい年も、財団の目的である茶道文化の普及発展に、地域の伝統文化の発掘と継承に、文化活動の助成等に貢献してまいります。

【声・情報お寄せください】

〒760-0017
高松市番町二丁目一十二
公益財団法人 中條文化振興財団編集部
TEL(087)826-3355
FAX(087)826-2212
info@chujo-zaidan.or.jp